

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-deaG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000001) 想像力の教室 Reflections on Imagination 想像力の教室 Reflections on Imagination	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q金1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dea	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 佐藤 慶太	<b>関連授業科目</b> 哲学A, 哲学B, 哲学D, 倫理学C <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)			
<b>授業の概要</b> 過去や未来の世界、他者の痛み、ユートピア、ファンタジー…。人間は想像力によって様々なものを思い描きます。人間はこの能力を通じて、社会を改善したり、他者と豊かな人間関係を作り上げたりすることができます。一方で想像力の過剰/暴走が、自分や他者を傷つけることもありえます。このような二面性をもつ「想像力」にどのように向き合っていけばよいのでしょうか。この授業では「想像力」にそなわる可能性を哲学的に考察します。			
<b>授業の目的</b> 人間として生きるうえで「想像力」が果たす役割を哲学的に考察することを通じて、そこで生じる諸問題について、自分の主張を論証できるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1. 社会において自分が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 (共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 「想像力」について、どのような哲学的な論点があるか、理解することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4. 「想像力」に関する哲学的な問題について、自分の意見を述べ、根拠づけることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業での課題への取組(40%:到達目標1、2に対応)と、レポート(60%:到達目標3に対対応)によって評価する。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション — 「想像力」を養うことの意義 第2週 他者と想像力①—メディアと想像力 第3週 他者と想像力②—報道とフィクション 第4週 他者と想像力③—フィクションが私たちにもたらすもの 第5週 社会と想像力①—倫理的規範と想像力 第6週 社会と想像力②— 倫理的規範と地域文化の固有性 第7週 未来を想像することの意義 第8週 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義とワークの時間によって構成されます。講義の時間では、担当教員が想像力についての哲学者の考えや関連する現代の問題について解説します。ワークの時間では、教員が提示した問題について、グループでのディスカッションやミニレポートに取り組んでもらいます。			

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

**【自学自習のためのアドバイス】**

概ね、次回で扱うテーマについての下調べと、グループディスカッションのテーマについてあらかじめ考えてくることが求められます。授業中に指示、アドバイスをしますので、それに従ってください。

**教科書・参考書等**

教科書：授業中にプリントを配布します。

参考書：授業中に適宜紹介します。

**オフィスアワー** 木曜日13:00～15:00 佐藤慶太研究室（教育学部5号館5F）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・グループワークがありますので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-decG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000002)  ライフプランニングから見た金融 Finance from the perspective of life planning  ライフプランニングから見た金融 Finance from the perspective of life planning	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q木5	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dec	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 三好 秀和	<b>関連授業科目</b> なし <b>履修推奨科目</b> なし		
<b>学習時間</b> 授業90分×8回 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> パソコンの表計算ソフトを利用して、日本人の標準的なライフプランを作成します。その作成した結果から生活を全うするために必要な金融商品を学ぶことでライフプラン上必要な金融商品や仕組みはどのようなものかを学ぶことができます。ライフプランを作成すれば少子化問題、高齢化問題、非正規雇用問題、男女賃金差問題が具体的に理解できます。また、金融商品の意義がわかる一方で本来の目的から外れた金融商品の購入の仕方が理解できます。若い君たち大学生が今後どう生きていくべきかの指針を得ることができる授業です。			
<b>授業の目的</b> 人生に金融はどのように役立っているのでしょうか。この疑問に答えるためのベースとなっている人々に生活に焦点をあて日本人の標準的な生活を金銭的な視点で理解しながら金融の意義を学びます。そのために、公開されている統計データから日本人の生活をライフプラン作成の手法を通じて描き出す能力を身に付けることができます。そして、その能力は自分の将来を描きだすことができるようになり、さらには倫理観に即したあるべき姿を創造することになります。先人の知恵である金融商品がどのように生まれたか、その意義を学ぶことができます。			
<b>到達目標</b>			
1. 標準的なライフプランと金融商品の同時の学びで消費者トラブルが生じた原因を考え、市民としての責任感と倫理観を身につける。(市民としての責任感と倫理観対応) 2. 日本人の標準的なライフプランで人生について発見、気づき、社会の問題発見能力が養える。(広範な人文・社会・自然に関する知識対応) 3. レポートにおいて地域住民であり生活者である父母のライフプランを作成し、その中からの気づきにより地域課題を発見できる。(地域に関する関心と理解力に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点40%、レポート60%、有益な発言意見には別途加点をおこなう。平常点は出席点ではありません。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 シラバスに基づいて授業の全体像を説明する。また、ライフプランとは何か。統計データをどう集めるか。家族のセットアップと家計統計について説明する。 第2回 収入1 日本人の平均年収、正規と非正規、男女賃金差、岡山の最低賃金を知る。 第3回 収入2 上場企業の年収、君のいきたい会社の年収は? その差の原因は何か? 第4回 三大支出1 生活費、いくら日本人は生活費にお金をかけているか? 消費者ローン、カード利用の問題点と利用方法。複利を味方につけるか敵に回すか? 第5回 三大支出2 住宅費はいくらかかるか? 賃貸と持ち家論争。住宅ローンにいくらかかるか? 第6回 社会保険と生命保険を学ぶ(財団法人生命保険文化センターゲスト講師による座学) 第7回 三大支出3 老後資金2000万円問題。年金はいくらもらえるのか。 第8回 資産運用 自己責任の時代を生き抜く。退職金、確定拠出年金は実は投資信託での運用です。投資信託のベースは何か。複利を味方にしよう。非課税商品を知ろう。分散投資の意味を知る。			
<b>【授業および学習の方法】</b> 講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜質問し回答してもらいます。このキャッチボールは柔軟な頭脳と瞬発力を高めます。知識一辺倒ではなく考える授業にし、問題解決能力を高めます。			

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**【自学自習のためのアドバイス】**

学習の課題となったデータを検索すること。学習の方法としてテキストを事前に読み全体像をつかんでおくこと(1時間程度)、授業で不明な点を解決すること、そして、復習としてレポート課題を少しずつ実施すること(1時間程度)が必要です。さらに、経済新聞や経済ドラマを見て金融機関とのかかわりが話題となっていないかに関心をもって観てください(1時間程度)。社会の仕組みの理解が深まります。特に倫理観の欠如が社会にどのように影響するかを想像することも大切となります。

**教科書・参考書等**

教科書:三好秀和著2017『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの教科書』経済法令研究会 ISBN978-4-7668-3346-1 1300円+税

参考書:三好秀和、佐々木一雄著2017『3年で退職しないための就活読本』同友館 ISBN978-4-496-05257-6 1600円+税

**オフィスアワー** 木曜日4限目(授業前の時間)、研究室は幸町南7号館3Fの個人研究室。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

授業はパソコン持参必須です。レポート課題作成のために受講生家族のライフプランを作成してもらいますが、個人情報保護の観点からライフプラン自身は提出不要です。しかし、その作成した上でいくつかのポイントについてレポートしてもらいます。

**教員の実務経験との関連**

日本FP学会理事、確定拠出年金の試験制度であるDCプランナーの試験委員は2000年からしています。以前はビジネスマンとして金融機関に従事していました。資産運用会社でのトレーダー等の経験もあります。現在、香川大学のサークル、金融証券研究会の顧問をしています。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-deaG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000003)  社会人になるための基礎を学ぶ To learn the basics for a member of society  社会人になるための基礎を学ぶ To learn the basics for a member of society	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 3Q火2	<b>対象年次</b> 1～	
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dea	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1		
<b>担当教員名</b> 竹内 正興	<b>関連授業科目</b> 教育社会学 <b>履修推奨科目</b>			
<b>学習時間</b> 授業90分×8回+自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)				
<b>授業の概要</b> 各回の授業において、キャリア、コミュニケーション、教育学の各基礎的理論の講義から問題設定を行い、グループでの議論、発表、担当教員からのフィードバックを中心に展開する。				
<b>授業の目的</b> これまでの自己を振り返り、教育学等の学問分野の基礎的な理論に触れながら、社会人として適応できるためのマインド面を中心としたレディネスを形成する。				
<b>到達目標</b>				
1. 学生が、主に地域社会への貢献の観点から社会人として必要な能力・要件について理解を深めることができる。(共通教育スタンダードの「d: 市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 主に、グローバルと地域社会の双方の観点から、地域に位置する大学に対する理解を深めることで、今後の大学生活全般に対する主体性を高めることができる。(共通教育スタンダードの「a: 課題解決のための汎用的スキル」「e: 地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 自己理解を学問と関連づけながら深めることで、学問に対する学びへの意欲を高めることができる。(共通教育スタンダードの「b: 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)				
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への主体的(積極的)参加(30%)、講義ごとの振り返りレポート(50%)、レポート課題(期末)(20%)とする。ただし、レポート課題(期末)が未提出の場合、成績評価が60%以上でも不合格とします。				
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>				
<b>【授業の方法】</b> この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、一部または全ての授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。				
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション：地域社会で求められる力について考える 第2週 地域社会で果たすべき役割(市民としての責任感と倫理観を中心に)考える 第3週 キャリア形成について考える 第4週 社会の中の自己について考える 第5週 コミュニケーション能力について考える 第6週 地域に魅力のある企業の特徴と求められる人材像について考える。 第7週 最終プレゼンテーションの準備。 第8週 最終プレゼンテーション、まとめ(90分授業)				
受講者が60人以上となった場合、第7週を講義(地域に魅力のある企業の特徴と求められる人材像について考える②)へ変更し、第8週を試験とする場合があります。単位取得だけが目的ではなく、本授業に積極的に参加しようとする姿勢を持った方の受講を歓迎します。				
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 講義ごとに課す振り返りレポートが授業の復習となります。 ・第1週～第6週 授業の振り返り(復習)の中から自分自身の気づきと今後の行動計画を考え、文章に落と				

し込む。

- ・第7週 最終プレゼンテーションの準備（予習）（グループでの作業＋個人での準備）。

#### 教科書・参考書等

講義毎に指示します。

**オフィスアワー** 1回目の授業でお伝えします。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・卒業のための単位取得のみが目的ではなく、授業に「積極的」に参加しようとする「意欲のある方」の受講を歓迎します。受け身ではなく積極的に参加しようとする姿勢を持つことが、この授業を履修する前提と考えてください。また、「教育学」分野の領域を議論のための題材として扱うことが多いので、教育について関心のある方の受講を歓迎します。
- ・グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名以下としますが、第7週の最終プレゼンテーションについては、受講者数が60名以上となった場合、プレゼンテーションから試験に変更する場合があります。
- ・15分以上の遅刻は欠席とみなします。

#### 教員の実務経験との関連

企業（教育系出版社）の勤務経験が約20年あります。学問と企業経験で培った実務を融合しながら、講義・演習を行います。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-debG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000004)  ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance  ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : deb	<b>対象学生</b> 全学生 <b>特定プログラムとの対応</b> 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 小方 朋子, 片岡 元子	<b>関連授業科目</b> <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 講義90分×7回+(まとめ45分+試験45分)×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> あなたはどんな大人になってどんな働き方を選びますか?ワークライフバランスの提唱や働き方改革など、日本人のライフスタイルが変化してきている今、自分がどのように育てられてきたのかを振り返りながら、社会人になったときに、生活と仕事と家庭のバランスをどうとるのか、人を育てるとはどういうことなのかを考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 育てられた世代から、育てる世代へとようになっていくという自覚を持ちながら、現代社会の課題に向き合えることと、将来の働く自分を想像し、社会人としての責任感と倫理観を自覚できるようになること。			
<b>到達目標</b>			
1. 現代の働き方についての課題を理解することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連付けて理解することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 自分はどのように育てられてきたのか、自分の育ちを客観視できる。 4. 自分の将来のライフワークバランスのビジョンを持つことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み(ミニテスト、グループワークの活動状況、発表など) 50%(到達目標1、2、3に対応) 試験 50%(到達目標4に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 地域社会を構成する大人になるということ 第2回 私の育てられ方(1)～私の名前～ 第3回 私の育てられ方(2)～生い立ちの記録を通して～ 第4回 現代の子育て事情 第5回 仕事と家庭 第6回 働き方改革について 第7回 現代の労働に関する課題と自分の働き方 第8回 まとめと試験			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回 この授業に関連するニュースなどについて事前に調べておく(事前2時間) 第2回、第3回は自分の名前の由来やどのように育てられたかなど思い出などを題材にするので、両親などからきいておくこと。名前の由来やこれまでの育てられ方についての取材(事前4時間)振り返り(事後2時間)。 第5回～第7回は現代の働き方(ジェンダー問題、家事育児、働き方改革など)を扱うので、現代社会で課題とされているものの情報を集めておくこと。(ジェンダー問題、家事労働、働き方改革について各事前4時間)			

+事後各2時間)

第8回の試験では自分の将来についても記述することになるので、疑問等やもっと知りたいことは自分で調べておくこと。(疑問等の調べ事前2時間、振り返り事後2時間)

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

資料はその都度配布します。

**オフィスアワー** 小方 水曜 1限 8号館2階

片岡 月曜 4限 8号館5階

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

この授業はグループワーク中心のため受講生は100名程度とします。

<p>ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000005)  地域で活躍する職業人に学ぶA  Role Models of Life in Communities A  地域で活躍する職業人に学ぶA  Role Models of Life in Communities A</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義 グループワーク</p>	<p><b>時間割</b> 2023年度  1Q月5</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: deb</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1～</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  特定プログラムとの対応  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  原 瑞穂</p>	<p><b>関連授業科目</b> キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B</p> <p><b>履修推奨科目</b> キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B</p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習7時間+事後学習10時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b>  本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支えている人達がいることを紹介します。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂きます。また、皆さんがキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義します。</p>			
<p><b>授業の目的</b>  皆さんが、自らのキャリアをデザインすることを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしています。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<p>①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。(「市民としての責任感と倫理観」に対応)</p> <p>②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識を理解するとともに、具体的な行動へつなげることができる。</p> <p>③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。(「地域に関する関心と理解力」に対応)</p> <p>④現時点における自分の人生のイメージを言葉にして表すことができる。</p>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(40%)、レポート・発表(60%)をもとに判断する。</p>			
<p><b>成績評価の基準</b>  成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。  秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。  優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。  良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。  可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。  不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。  ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。  合格又は了 到達目標を達成している。  不合格 到達目標を達成していない。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業計画】</b>  第1回 講話 オリエンテーション・市民としての責任感と倫理観  第2回 講義 キャリアとキャリア形成  第3回 講話 ゲスト1 四国新幹線整備促進期成会  第4回 講話 ゲスト2 帝国製薬㈱  第5回 講話 ゲスト3 香川県東讃保健福祉事務所次長(兼)東讃保健所長  第6回 講話 ゲスト4 香川県警察本部  第7回 講話 ゲスト5 香川県教育委員会  第8回 講義 まとめ  ※予定ゲスト講師:担当、順番は変わることがあります。</p> <p><b>【授業および学習の方法】</b>  様々な業界から職業人を講師として招聘します。登壇者の所属・役職名は令和4年3月時点のものです。この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p><b>【自学自習のためのアドバイス】</b>  第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について考察する。  第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る。</p>			

第8回 授業での学びを自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にし、具体的な行動を考える。

**【注意事項】**

- ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただきますので、異世代とのコミュニケーション能力を高める機会として活かしてください。
- ② ポートフォリオの提出をもって出席確認とします。出席していない回のもは提出することが出来ません。
- ③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶB」（第2Q）とゲスト講師が異なりますので、内容も違っております。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

**教科書・参考書等**

各講、レジュメを配布する。

**オフィスアワー** [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「地域で活躍する職業人に学ぶ～未来へ羽ばたけ編～」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。
- ・外部講師を招聘しますので、遅刻などないように特に留意してください。
- ・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

<p>ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000006)  地域で活躍する職業人に学ぶB  Role Models of Life in Communities B  地域で活躍する職業人に学ぶB  Role Models of Life in Communities B</p>	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士：入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> ：大教センター <b>DPコード</b> ：deb	<b>対象学生</b> 全学生 <b>特定プログラムとの対応</b> 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 原 瑞穂	<b>関連授業科目</b> キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
	<b>履修推奨科目</b> キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
<b>学習時間</b> 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習7時間+事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支えている人達がいることを紹介します。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂きます。また、皆さんがキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義します。			
<b>授業の目的</b> 皆さんが、自らのキャリアをデザインすることを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしています。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。(「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識を理解するとともに、具体的な行動へつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。(「地域に関する関心と理解力」に対応) ④現時点における自分の人生のイメージを言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b>			
授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(40%)、期末レポート・発表(60%)をもとに判断する。			
<b>成績評価の基準</b>			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 講話 オリエンテーション・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 キャリアとキャリア形成 第3回 講話 ゲスト1 (株)百十四銀行 第4回 講話 ゲスト2 (株)マキタ 第5回 講話 ゲスト3 四国電力(株) 第6回 講話 ゲスト4 香川労働局 第7回 講話 ゲスト5 JR四国(四国旅客鉄道(株)) 第8回 講義 まとめ ※予定ゲスト講師：順番は変わることがあります。 <b>【授業および学習の方法】</b> 様々な業界から職業人を講師として招聘します。登壇者の所属・役職名は令和4年3月時点のものです。この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について考察する。 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る。			

第8回 授業での学びを自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にし、具体的な行動を考える。

**【注意事項】**

- ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただきますので、異世代とのコミュニケーション能力を高める機会として活かしてください。
- ② ポートフォリオの提出をもって出席確認とします。出席していない回のもものは提出することが出来ません。
- ③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶB」（第2Q）とゲスト講師が異なりますので、内容も違っておきます。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

**教科書・参考書等**

各講、レジュメを配布する。

**オフィスアワー** [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「地域で活躍する職業人に学ぶ～地域を元気に編～」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。・外部講師を招聘しますので、遅刻などないよう特に留意してください。
- ・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-deaG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000007)  キャリアデザインと自己理解 Career Design and Self-Understanding  キャリアデザインと自己理解 Career Design and Self-Understanding	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q木1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dea	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 原 瑞穂	<b>関連授業科目</b> 地域で活躍する職業人にA・B、キャリアデザインと対人関係、キャリアデザインと地域貢献A・B		
	<b>履修推奨科目</b> 地域で活躍する職業人にA・B、キャリアデザインと対人関係、キャリアデザインと地域貢献A・B		
<b>学習時間</b> 授業90分×8講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を通して、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考えてもらいます。主なキャリア理論に従い、自分の経験や興味関心などによって職業適性への考察を深めるといいます。			
<b>授業の目的</b> 自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業です。皆さんが、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的としています。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。「市民としての責任感と倫理観」「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応) ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていきける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行います。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション.市民としての責任感と倫理観 第2回 自己理解(職業興味) 第3回 自己理解(価値観) 第4回 自己理解(体験を振り返る) 第5回 自己理解(職務適性・基礎力) 第6回 ゲスト:「私のキャリア形成」 第7回 今後の学生生活の目標(発表) 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなります。ワークには心理テスト、職務適性テスト、ワークシートなどを使用予定です。この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～4回 キャリア形成において自己を知るワークを通して自己理解を深める。			

第5 回 ゲスト講師のキャリア形成の話聞き、自己のキャリア形成を考える。  
第6～7回 職務適性テストの結果とこれまでのワークをもとに自身の今後の目標計画をプレゼンテーションする。  
第8 回 全体の振り返りを行う。

**教科書・参考書等**

適宜レジュメや参考資料等を配付

**オフィスアワー** [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター (大学会館2階)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「キャリアデザインと職業適性イ・ロ」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。
- ・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

<p>ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000008)          キャリアデザインと対人関係          Career Design and Interpersonal Relationships          キャリアデザインと対人関係          Career Design and Interpersonal Relationships</p>	<p><b>科目区分</b>          ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義 グループワーク</p>	<p><b>時間割</b> 2023年度          3Q金2</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: dea</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1~</p> <p><b>対象学生</b> 全学生          特定プログラムとの対応          対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>          原 瑞穂</p>	<p><b>関連授業科目</b> キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと地域貢献A・B、地域で活躍する職業人に学ぶA・B</p> <p><b>履修推奨科目</b> キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと地域貢献A・B、地域で活躍する職業人に学ぶA・B</p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×8講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>本授業では、キャリアデザインを考える上で避けては通れない他者との関係について考えたいという学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行います。中心となる考え方は、主なキャリア理論に従い、対人関係からキャリア形成への考察を深めるというものです。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業です。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的としています。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<p>①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。(「市民としての責任感と倫理観」「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応)</p> <p>②キャリアにおける対人関係能力の必要性を認識し、各々の項目を増やしていきける。</p> <p>③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。(「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</p>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行います。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)</p>			
<p><b>成績評価の基準</b></p>			
<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1回 オリエンテーション. 市民としての責任感と倫理観          第2回 コミュニケーションについて          第3回 リフレーミングから新しい自分発見          第4回 自分の行動パターンを知る          第5回 ゲスト講話: 社会人に学ぼう          第6回 他者へのインタビューから          第7回 今後の学生生活の目標 (発表)          第8回 講義 まとめ</p> <p><b>【授業および学習の方法】</b></p> <p>本授業は、講義とグループワークからなります。ワークには心理テスト、ワークシートなどを使用予定です。この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p><b>【自学自習のためのアドバイス】</b></p> <p>第1~4回 キャリア形成において他者との関係から自己を知るワークを通して自らの力を認識し大学生生活の目</p>			

標を立てる。

第5 回 ゲスト講師のキャリア形成の話聞き、仕事でのコミュニケーション力を考える。

第6～7回 これまでのワークをもとに今後の計画を立てプレゼンテーションする。

第8 回 全体の振り返りを行う。

#### 教科書・参考書等

適宜レジュメや参考資料等を配付

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター (大学会館2階)

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。

#### 教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

<p>ナンバリングコード BILFD-decG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000009)</p> <p>私たち(主権者)と公共・代表  We as the sovereign and public life, representatives</p> <p>私たち(主権者)と公共・代表  We as the sovereign and public life, representatives</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p>	<p><b>時間割 2023年度</b>  1Q火2</p>	<p><b>対象年次</b> 1～</p>
	<p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p>	<p><b>提供部局:</b> 大教センター  <b>DPコード:</b> dec</p>	<p><b>対象学生</b> 全学生  特定プログラムとの対応  対応なし</p>
	<p><b>授業形態</b> 講義 グループワーク</p>	<p><b>単位数</b> 1</p>	
<p><b>担当教員名</b>  堤 英敬, 金 宗郁</p>	<p><b>関連授業科目</b>  <b>履修推奨科目</b></p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習20時間 + 事後学習10時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>この授業の前半では、今日の公共的課題(地方における人口減少問題とインターネット上での誹謗中傷問題問題)についてグループで議論し、それを解決するための政策立案を行います。世の中に存在する社会問題をめぐっては様々な価値観や考え方がありますが、そうした多様性を理解し、お互いの違いを認めた上で、多面的な観点から思考するとともに、合意形成の方向性を探っていきます。後半は、私たちの意思が選挙を通じた代表者の選出を介して、政策の決定にどのように繋がっていくのかを学びます。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>国や地方自治体の活動や、地域や社会における様々な課題(「公共的課題」)が「私たち(主権者)」の生活とどう関わっているかを考え、議論するなかで、政策を決定し実施する国や自治体の代表者(「代表」)を選ぶことの意義、ひいては主権者としての意識の醸成とその責任について考えることが、この授業の目的です。</p>			
<p><b>到達目標</b></p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域や社会における公共的課題が自らの生活とどう関わっているか、関わってくるかを理解できる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応)</li> <li>2. 公共的課題について多様な価値観や考え方を理解し、多面的に思考することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</li> <li>3. 公共的課題について、他者と協働的に議論することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</li> <li>4. 公共的課題を解決するための政治のあり方、代表の意義、主権者としての責任について思考することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)</li> </ol>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業への参加の度合(40%)、グループ報告の内容と政策討論会での対応(20%)、公共的課題に関するレポート(35%)、選挙での投票に関するレポート(5%)</p>			
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可(60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>			
<p><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>基本的に、6人程度のグループによるグループ・ワークを中心として授業を進めます。前半(第2週～第6週)は、若者の引きこもりの問題もしくはインターネット上での誹謗中傷問題問題をテーマとして、グループでの議論を通じた政策立案を行います。第5～6週には各グループの報告と政策討論会を行う予定です。また、後半は選挙についての学習を行います。第7週には、選挙に関する基本的な仕組みを確認した上で、グループ・ワークを通じて、日本の政党の政策的立場のマッピングを行います。それを受けて、第8週に意見交換を行います。</p> <p>なお、この授業は全回、対面授業を行います。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1週 ガイダンス、地方における人口減少問題・インターネット上での誹謗中傷問題問題の基礎知識</p> <p>第2週 グループ討議(1): 論点の整理</p> <p>第3週 グループ討議(2): 現状の把握</p> <p>第4週 グループ討議(3): 政策の立案</p> <p>第5週 グループ報告と政策討論会: 地方における人口減少問題</p> <p>第6週 グループ報告と政策討論会: インターネット上での誹謗中傷問題問題</p>			

第7週 選挙の基礎知識・日本の政党の政策的立場  
第8週 日本の政党の政策的立場：意見交換（45分授業）

**【自学自習の指示】**

第2週 グループ内で分担して、政策課題の論点を用意する（3時間）。  
第3週 グループ内で分担して、課題の現状が把握できる資料を用意する（3時間）。  
第4週 グループ内で分担して、政策課題の解決に資する政策を考える（3時間）。  
第5～6週 グループで報告資料の作成など報告・討論の準備を行う（6時間）。第8週までに、グループで取り上げた公共的課題に関するレポートを作成する（8時間）  
第7週 配付資料などを参考にしながら、政党の政策的主張をまとめる（5時間）。  
第8週 選挙での投票に関するレポートを作成する（2時間）。

**教科書・参考書等**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来：有権者として求められる力を身に付けるために』2022年  
([https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000815495.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000815495.pdf))

**オフィスアワー** 堤：火曜12:30～13:30（研究室:幸町南6号館5F）  
金：火曜13:00～14:00（研究室:幸町南6号館5F）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-decG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000010)  多様なライフ・キャリアを考えるー男女共同参画の視点から Diversity in life and career from the perspective of gender equality  多様なライフ・キャリアを考えるー男女共同参画の視点から Diversity in career from the perspective of gender equality	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q木5	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dec	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 柴田 潤子, 黒澤 あずさ	<b>関連授業科目</b> D(ダイバーシティ)&I(インクルージョン)入門 <b>履修推奨科目</b> D(ダイバーシティ)&I(インクルージョン)入門		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 価値観の多様化が進む社会の中で、自分らしい生活・ライフデザイン・キャリアを設計・形成することは、益々重要となっている。本授業では、「男女共同参画」を基軸とした価値観をキャリア・ライフデザインにどのように位置づけていくかを考えるための講義を提供する。 多様な分野で活躍されている主に実務家によるオムニバス形式によって、授業を構成する。まず、男女共同参画についての総論から始める。キャリアデザインを構築するにあたって、子育ての課題、労働法制、ジェンダー・性的な問題を法律・医学の視点から検討し、さらに、具体的に裁判所や理系分野で活躍する女性のキャリアについて理解できる様にする。			
<b>授業の目的</b> 生き方を取り巻く環境の変化に伴い、人間の生き方は大きく変わると予測され、前の世代の人生をコピーするだけでは幸せに生き抜かれられない時代が到来している。本授業では、長い人生において、様々な価値感が存在する社会で「男女共同参画社会」という価値観を、ジェンダー問題、キャリア、地域社会という観点から広く共有し、人間の尊重を基礎に据えた、自分らしいキャリア・ライフデザインを考えることができるようにする。			
<b>到達目標</b>			
1. 現代における社会全般・地域社会の「男女共同参画」をめぐる課題を理解し、その意義を述べることができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 「男女共同参画」社会の実現に向けた自らのキャリア・ライフプランを述べることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業中に課す授業メモ(ミニレポート)等(20%、到達目標1)、期末レポート(80%、到達目標1,2)で評価する。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 「男女共同参画推進社会」について総論-「どんな個人も尊重して生きられる社会を目指して」外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部 政務社会部専門機関班 参事官 永田真一先生、ダイバーシティ推進室長 柴田潤子教授 第2回 「ジェンダーの視点で考える『社会』と『法』」 香川県弁護士 佐藤倫子先生 第3回 「裁判所における女性の活躍」高松地方裁判所総務課長 村瀬かおる先生、高松地方裁判所民事訟廷管理官 瀬戸サユリ先生 第4回 「誰もが生き生きと働くために ?男女共同参画の視点から働き方を考える」香川労働局雇用環境・均等室長 第5回 「子育て家庭の現状と課題、必要な支援とは」 NPO法人わははネット理事長 中橋恵美子先生 第6回 「「SRHR (セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツ) を知りましょう」医学部医学科 教授 塩田敦子先生 第7回 「技術者を取り巻くさまざまな環境と自分自身で描く未来予想図 ?ライフプラン設計?」復建調査設計株式会社 四国支社 岩井綾先生			

第8回 「企業におけるダイバーシティについて」アオイ電子株式会社 高松本社 杠明日美先生

この科目は基本的に対面授業を行います。第1回は、講師の先生の都合上(スイス・ジュネーブ在住)、遠隔講義となります(教室での開講)。

第1週のガイダンスで授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝えます。  
なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずる事があります。

講義は、パワーポイントを中心に進めます。ムードルに資料・連絡事項を掲載しますので、ムードルは必ずご確認ください。

各回の講義に参加し関心を持った分野についてのリサーチを加え、最終レポートを作成します。  
準備学習として、男女共同参画に関する問題について自分なりに情報を集め、考察を行い、事後学習としては、講義の内容を基に他の文献等を参考にして、自らの考えを整理する様にしてください。

#### 教科書・参考書等

特になし。

オフィスアワー ダイバーシティ推進室(北5号館1F)の開室時間。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業について、授業メモの提出を求めることがあります。  
本授業の内容は、2021年度以前開講の主題A「男女共同参画の視点からライフデザインを考える」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

#### 教員の実務経験との関連

地域及び全国で活躍され、子育て支援や男女共同参画に関わる実務経験、実務家(行政/労働局・弁護士・企業勤務等)経験にもとづき、講義を行います。

<p>ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lx1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000011)  D (ダイバーシティ) &amp;I (インクルージョン) 入門  Introduction to Diversity &amp; Inclusion  D (ダイバーシティ) &amp;I (インクルージョン) 入門</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義</p>	<p><b>時間割</b> 2023年度  1Q火1</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: dea</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1～</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  特定プログラムとの対応  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  柴田 潤子, 黒澤 あずさ</p>	<p><b>関連授業科目</b> 多様なライフキャリアを考える～男女共同参画の視点から  <b>履修推奨科目</b> 多様なライフキャリアを考える～男女共同参画の視点から</p>		
<p><b>学習時間</b> 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b>  少子高齢化、情報化、グローバル化など、社会環境の大きな変化に対応し、共生社会の実現に一層の貢献をしていくためには、多様性を尊重し、認め受け入れるD&amp;I (ダイバーシティ&amp;インクルージョン) の推進が必要です。本学では、2021年10月「D&amp;I推進宣言」を行い、構成員一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できるために、「D&amp;I基本方針」を策定しました。この授業では、学内外の教員によるオムニバス形式によって、ジェンダー、障害、多文化共生、性の多様性、大学、企業などの幅広い視点からD&amp;Iについて学びます。</p>			
<p><b>授業の目的</b>  D&amp;Iについての基礎的な知識を学び、理解を深めるとともに、その知識を活用してD&amp;I実現のための施策を考察できるよう、レポート課題を適宜取り入れる予定です。また、D&amp;Iを自分事として捉え、大学でどのように学び、生活を送っていくかをデザインする一助になればと考えています。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. D&amp;Iについて複合的な視点から理解し、その意義を述べるができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。</li> <li>2. D&amp;I 推進のためには何が必要なのか。地域の現状と比較しながら具体的に説明することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。</li> <li>3. 自分の主張をわかりやすく記述することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。</li> </ol>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業中に課すミニレポート20% (特に到達目標1、3に対応)、期末レポート80% (特に到達目標2、3に対応)</p>			
<p><b>成績評価の基準</b>  成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。  秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。  優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。  良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。  可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。  不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。  ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。  合格又は了 到達目標を達成している。  不合格 到達目標を達成していない。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業計画】</b>  第1回 オリエンテーション (柴田潤子・黒澤あずさ) *初回は45分授業  第2回 多文化共生を考える (植村友香子先生: 地域・産学官連携戦略室特命准教授&lt;グローバル担当&gt;)  第3回 障害を考える (坂井聡先生: 教育学部教授、バリアフリー支援室長)  第4回 ユニバーサルデザインを考える (中島美登子先生: 創造工学部准教授)  第5回 ジェンダーを考える (園部裕子先生: 経済学部教授)  第6回 性の多様性を考える (葛西真記子先生: 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授)  第7回 見えない生きづらさを考える (長谷綾子先生: 医学部臨床心理学科講師)  第8回 ダイバーシティマネジメントを考える (吉澤康代先生: 地域マネジメント研究科准教授)</p> <p><b>【授業及び学習の方法】</b>  授業は、講義が中心で、D&amp;Iに関わる多様な分野を専門とする学内外の教員によるオムニバス形式で行います。また、各回でミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。</p>			

期末レポートでは、各回の講義を受講し関心を持った分野を一つ以上取り上げ、考察し、学内におけるD&I推進のための施策・提案を加えたレポートを作成します。

この科目は、基本的に対面授業を行います。一部の授業では遠隔授業を行います。なお、講師および授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずることがあります。

**【自学自習のためのアドバイス】**

毎回の準備学習として、新聞、雑誌、書籍、インターネット等でD&Iに関する情報を収集し、考察を行ってください。事後学習としては講義の内容を基に、授業内で提示された文献等を参考にして、自らの考えを整理し、ミニレポートにまとめて提出してください。

**教科書・参考書等**

授業中に適宜紹介します。

**オフィスアワー** 全般的な点については、コーディネーターの黒澤へ（オフィスアワー：ダイバーシティ推進室の開室時間）、事前に予約をすることが望ましい。個々の講義内容については、授業後に講義担当者に尋ねてください。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

講義が中心ですが、受講者間で意見交換などを行う場合もあります。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-dexG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000012)  グローバルマインドセットと働き方 グローバルマインドセットと働き方 Global mindset and working style	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 3Q月1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dex	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 石原 淳也, 植村 友香子	<b>関連授業科目</b> <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 授業90分 x 7.5回 + 自学自習(事前、授業後あわせて30時間)			
<b>授業の概要</b> グローバル化ということばを聞いてどのようなイメージをもつでしょうか。 この授業では、職場におけるグローバル化をテーマに、この40年間の日本企業の国際化への取り組みや、外国での駐在経験から得た知見を紹介しながら、外国にルーツを持つ人々といっしょに働くことについて、考えていきます。 すでに日本国内の身近なところに外国にルーツのある人々が大勢働いています。海外出張や駐在をしなくても、外国人といっしょに働き、地域社会で共に暮らすことは特別なことではなくなりつつあるといえるでしょう。そういう社会に必要なマインドセット(思考のための枠組みや関心の持ち方など)とはどのようなものでしょうか。 担当する二人の教員(大手商社で14年間の海外駐在経験があり、昭和から令和にかけて40年にわたるビジネスの現場を熟知する石原と、フィンランドの大学で約20年教員として勤務した植村)が、それぞれの経験にもとづいて、これからの日本のグローバル化について探ります。			
<b>授業の目的</b> 「グローバル化」「グローバル人材」について基礎的な知識を学び、日本と大きく歴史、文化が異なる国々(サウジアラビア、フィンランド)のグローバル化への取り組みをふまえて、日本のグローバル化のあるべき姿や可能性を考えます。そのうえでグローバル化を自分事として捉え、大学でどのように学び、将来のキャリアをイメージするための一助となればと思います。			
<b>到達目標</b>			
①グローバル化・グローバル人材の様々な定義を理解し、日本にとって、地域にとっての最適なグローバル化について自分のことばで説明できる。※(地域に関する関心と理解力) ②外国にルーツを持つ人とともに働くために必要なマインドセットがどのようなものかを理解する。 ③他国の価値観や文化を知り、自分自身にどのように活かせるかを考え記述することができる。 ※(市民としての責任感と倫理感) ※ 共通教育スタンダード			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のミニレポート(6回、特に到達目標③に対応)60%と「グローバル人材」に関する最終レポート(特に到達目標①②に対応)40%			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
(授業計画) 第1回 オリエンテーション・「グローバル化」「グローバル人材」とは?(石原/植村) 第2回 日本におけるグローバル化の現状(植村) 第3回 総合商社におけるグローバル化40年(石原) 第4回 他国から学ぶグローバル化のヒント①サウジアラビア(石原) 第5回 他国から学ぶグローバル化のヒント②フィンランド(植村) 第6回 ケース学習で考える「同じ職場に外国人がいたら」(植村) 第7回 企業が求めるグローバル人材とは?(石原) 第8回 まとめと振り返り			

(授業及び学習の方法)

1. 授業は対面で実施。講義中心に進めます。他の受講者との意見交換や質疑応答などへの積極的な関与を求めます。
2. 各セッションでミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。

(自学自習の為のアドバイス)

第2回【事前】配布資料に目を通し、現在の日本の外国人の状況について自分なりに説明できるよう準備する。【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(あわせて5時間)

第3回【事前】配付資料に目を通し、日本特有の事業形態である“総合商社”とはどのような事業形態なのか？どこに強みがあると思われるのか？を調べる。

【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(あわせて5時間)

第4回【事前】配付資料に目を通し、中東とはどの地域を指すのか？中東地域の大国であるサウジアラビアがどのような特徴を持った国なのかについて調べる。

【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(合わせて5時間)

第5回【事前】フィンランドの地理・歴史・言語・教育・政治の分野における、基礎的情報について調べておく。

【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(あわせて5時間)

第6回【事前】配布される「ケース」について読み、問いに対する自分なりの答えを考える。

【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(あわせて5時間)

第7回【事前】配付資料に目を通り、企業が求めるグローバル人材について理解する。

【授業後】学習内容についての気づき・振り返り。(あわせて5時間)

**教科書・参考書等**

参考文献は授業の中で適宜紹介します。

**オフィスアワー** 幸町北キャンパス 研究交流棟 3階 毎週 火曜日 10時～11時 (石原)  
幸町南キャンパス 3号館 2階 (3-2-12) 毎週 火曜日 11時～12時 (植村)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

毎回出席を取ります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

講義への主体的な参加に加え、受講者間や講師との交流を通してお互いから学び合う姿勢を重視します。

**教員の実務経験との関連**

石原は大手商社で40年の勤務経験・海外駐在経験あり。植村はフィンランドの大学で日本語教員として約20年の勤務経験あり。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-dbcG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000013)  自律と自立を考える  自律と自立を考える。 100年人生!みんなは、いかに生きる? The Difference between Autonomy and Independence How do you live?	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火2	<b>対象年次</b> 1~
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dbc	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 岡本 崇宅	<b>関連授業科目</b> <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 対面講義90分×8回+事前・事後の自学自習、グループまとめ			
<b>授業の概要</b> 全ての人が、孤独化することは、本当に問題なのか。 若者は、積極的でなければならないのか。 「生きづらさ」が近年、社会から発信され、情報はネガティブな表現が目立っている。 そんな社会に、まもなく進出する学生に対して、自ら考え、行動し、結論付ける(自立し自律する)ことの重要性を共に考える授業を行う。			
<b>授業の目的</b> 将来の自己決定について、その目的と方法を説明できる。そのためには、「働く」ということについて説明ができ、「生きる」ということについて説明ができる。そのような知見と説明能力を養う。			
<b>到達目標</b>			
1. 自分で「問い」が立てられる。 2. 自分で「解決策」が考えられ、他者に説明が論を立てて出来る。 3. 自分を律し、自分で生きていく「未来への計画書」が立てられる。 3については、教室内で履修生全員で情報を共有(シェア)し、全履修生から「ポジティブ評価」を貰います。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 【必ず読んでください。】 期末テスト40% (到達目標2に対応)、グループ発表50% (到達目標3に対応)、ミニレポート10% (到達目標1に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回: 「自立・自律」を知る 第2回: 「100年人生」を知る 第3回: 「生きる」「ライフデザイン」を知る 第4回: 「地元・地域」「キャリアデザイン」を知る 第5回: 「21世紀の日本・国際社会」を知る 第6回: グループ発表① (発表者をポジティブに評価する) 第7回: グループ発表② (発表者をポジティブに評価する) 第8回: グループ発表振り返り45分+期末試験45分  <b>自学自習のためのアドバイス</b> 1. 毎回、翌週の課題の「キーワード」を伝えます。下調べをお願いします。(下記3参照) 2. 翌週の授業開始時に、「キーワード」について調べた「事前学習シート」を回収します。(15時間)  3. 第1回出席用宿題(下調べレベル)「自立」「自律」について、「自分の考え」をまとめてください。 考えがまとまらない人は、各自で調べてみましょう。図書館で書籍を調べてみる。インターネットで論文を検索してみる。但し、wikipediaは利用しないでください。 ●A4縦用紙1枚に「自立」、「自律」に分けて、それぞれ手書きでまとめて、授業に参加してください。			

(学部、学籍番号、名前を用紙上部右側に記入してください)

●授業開始時に提出を求めます。事前学習ですので、内容は減点の対象にはなりません。提出をお願いします。

#### 教科書・参考書等

特に指定はしません。適時プリントを配布します。参考文献等も適時紹介します。

**オフィスアワー** 火曜日 3、4 時限目を設定しますが、出張もありますので、事前（当日の終講時）に確認してください。

また別途希望者は必ず事前の場合メールを⇒ [okamoto.takaya@kagawa-u.ac.jp](mailto:okamoto.takaya@kagawa-u.ac.jp)

(研究室所在地：研究交流棟 2 階奥の右奥)

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各授業で扱った内容について詳しく学びたい人は、関係書籍を紹介します。

#### 教員の実務経験との関連

キャリア教育の教材開発を民間と協力して行った経験があります。21世紀も4半世紀が過ぎようとしています。これからの生き方について、さまざまな考えについて講義を行います。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-decG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000014)  身近な生活における支援を考える Support in daily life  身近な生活における支援を考える Support in daily life	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 3Q金2	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dec	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 大沼 泰枝	<b>関連授業科目</b> <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
<b>授業の概要</b> 私たちの社会は人が支えあうことで成り立っています。普段、健康で問題なく過ごしている時は、その存在に気を留めませんが、様々な支援が身近な生活の中にあります。まずは、家族や友人との関係について振り返り、身近な対人関係における支援について考えます。次に、大学内のピア・サポートについて学び、ピア・サポート活動が活発に行われるための方法について学生の視点で検討します。さらに、社会保障や自治体(地域)の支援制度について知り、それらの仕組みがどのように成り立ち、どのような時に活用できるのかについて学びます。			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は、私たちの生活が人や社会から支えられ、そして支えることで成り立っていることを理解することです。具体的には、家族間や友人間、学生間のサポート、国や自治体(地域)の支援制度等について学び、グループワークを通じて理解を深めます。「支援」をキーワードに、個人として果たすべき社会的役割と責任、配慮ある市民としての行動について理解し、そこから自己や社会の未来について考えます。			
<b>到達目標</b>			
1. 家族や友人との関係を振り返り、その経験についてグループ内で話すことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 大学内のピア・サポート活動に関心を持ち、その活性化のための方法について学生の視点でアイデアを出すことができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 国の社会保障や自治体(地域)の支援制度を自分の生活と関連付けることができる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」、「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小レポート (25%) 到達目標1・2・3に対応 グループワーク (25%) 到達目標1・2・3に対応 最終レポート (50%) 到達目標2・3に対応			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 家族関係 : 家族からの支援 第3回 子育て・介護 : 家庭内におけるケア 第4回 友人関係 : 友人関係における支援 第5回 ピア・サポート : 学生間の支援 第6回 大学における支援 : 障害のある学生への支援 第7回 社会からの支援 : 社会保障制度、自治体(地域)の支援制度 第8回 まとめ			

**【授業及び学習の方法】**

講義の他に毎回グループワークを行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

**【自主学習のためのアドバイス】**

第1回 身近な生活における支援について学ぶことの意味を考える（2時間）

第2回 日本の家族の現状について統計資料などに基づいて考察する（5時間）

第3回 子育てや介護に関する自治体（地域）の支援事業について調べる（5時間）

第4回 青年期の友人関係について考察する（3時間）

第5回 ピア・サポート活動について調べる（3時間）

第6回 大学構内のバリアフリーチェック行い、報告書を作成する（7時間）

第7回 社会保障制度について調べる（5時間）

**教科書・参考書等**

適宜資料を配布します。

オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00

バリアフリー支援室（5号館1階）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

家族関係や友人関係といった個人的な内容をグループワークで扱うため、互いを尊重し、配慮しあうことを必要とします。グループワーク中心の授業形態のため受講者数は100名程度とします。

**教員の実務経験との関連**

臨床心理士として、病院・相談機関・学校などで勤務経験があり、現在は障害のある学生を支援するバリアフリー支援室の業務を行っています。この授業では、「支援」をキーワードに、学生の皆さん一人ひとりが、自己や社会の未来について考える機会につなげたいと思います。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-debG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000015)  人生100年時代の学びと仕事を考える Learning and work in the 100 year time period  人生100年時代の学びと仕事を考える Learning and work in the 100 year time period	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火2	<b>対象年次</b> 1～	
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : deb	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1		
<b>担当教員名</b> 蝶 慎一	<b>関連授業科目</b> 学問基礎科目 全般 <b>履修推奨科目</b>			
<b>学習時間</b> 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)				
<b>授業の概要</b> 人生100年時代と言われます。高校までの進路選択や人生を振り返りながら、香川大学入学後に大きく多様に広がっていく学びやキャリア、ライフデザインに関わる重要なテーマやトピックについて基本的な知識や概念、考え方を知り、理解する時間とします。そして、今後の人生、キャリアを考える契機とします。				
<b>授業の目的</b> 人生100年時代を見据え、自分自身の人生とキャリアを考えるきっかけとするために、「進路・就職」「リスクリリング」「学びなおし」の主な実態やそれらに関連する問題を理解し、目的意識を持ちながら今後のキャリアデザインを主体的に行うための知識、思考の方法を身につける。				
<b>到達目標</b>				
1. 「進路・就職」「リスクリリング」「学びなおし」に関連する基礎的な知識・理解を幅広く習得し、具体的に説明できる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これからの大学での学びを再考するきっかけを見つけるとともに、自分自身のライフデザインについて具体的に見つめなおし、討議できる(共通スタンダード「d 市民としての責任感と倫理観」に対応)。 3. 「進路・就職」「リスクリリング」「学びなおし」をめぐる地域に関する興味関心について、これまで自分が何を考えてきたのかを振り返ることで、必要な学問的基礎を身に付けることができる(共通教育スタンダード「e 地域に関する関心と理解力」に対応)。				
<b>成績評価の方法と基準</b> ・各週の「ふり返しシート」、授業でのディスカッションへの取組、70%(到達目標の1及び2.に対応) ・最終レポート 30%(到達目標の1.及び3.に対応)				
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>				
第1週 オリエンテーション 第2週 人生100年時代と令和の日本型学校教育 第3週 大学教育の動向と特徴 第4週 学部から新卒、転職 第5週 これからの仕事と職業、地域社会 第6週 令和における大学院教育とキャリアデザイン 第7週 学びなおし・リスクリリング 第8週 まとめ ―市民として新たな学びの時代へ  <b>【授業及び学習の方法】</b> この授業は、人生とキャリアに関する基本的な知識・理解を深める講義、受講生からのディスカッション、「ふり返しシート」に対するフィードバックなどで主に構成されます。大学に入学し、新たな学びの内容や環境、今後の人生やキャリアについて自分自身で考えるきっかけを創る授業とします。なお、受講生の人数や関心等で授業計画(各週で扱う内容)が前後することがあります。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 自分自身が関心のある「キャリア」、「進路」、「リスクリリング」、「学びなおし」などに関するトピックについて、①最近の文献や雑誌記事などを入手し(5時間)、②その中から興味関心のあるものを選択し、簡潔に要約し(15時間)、③面白いと考えた文献や今後考えてみたい点を文章で説明してください(10時)				

間)。その際に下記で示している参考書等も参照して下さい。なお、この自学自習は、授業における最終レポートの作成準備になります。

**教科書・参考書等**

教科書：特にありません。

参考文献：玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安 一揺れる若年の現在』（中公文庫）中央公論新社、2005年。  
大竹文雄『競争社会の歩き方 自分の「強み」を見つけるには』（中公新書2477）中央公論新社、2017年。

メアリー・C・ブリントン（池村千秋訳）『失われた場を探して ロストジェネレーションの社会学』NTT出版、2008年。

メアリー・C・ブリントン（池村千秋訳）『縛られる日本人』中央公論新社、2022年。

**オフィスアワー** 基本的には、火曜日3校時、研究室は、北キャンパス5号館4階です。詳細は、担当教員に相談して下さい。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

各週に出席確認を兼ねて「ふり返しシート」を書いてもらいます。前提となる知識は特に不要です。これからの大学での学びや「進路」、「キャリア」、「リスキリング」などについて一緒に考えてみましょう。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-edcG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000021)  地方で生きるということを考える Discussing living in the countryside  地方で生きるということを考える Discussing Living in the Countryside	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q金1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : edc	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 大村 隆史	<b>関連授業科目</b> なし <b>履修推奨科目</b> なし		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間、事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では「私はどこで、どのように生きていくか」という問いを軸とした講義とグループワークを行います。従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆく昨今の状況を踏まえて、受講者自身が主体的に考え、自分たちの場所を自分たちで作っていくこと、ひいては社会や公共の担い手としての自覚を獲得していくことにつながる学びの場を用意します。 具体的には、各回のテーマに関する講義を行ったあと、地方で暮らし、はたらく人びとに関するいくつかの事例について、グループでディスカッションをさせ、「地方」「暮らし」「仕事」といった人生とキャリアに関わる概念をめぐるそれぞれの率直なイメージを共有させ、自分の価値観を含む様々な価値観との出会いの場を創出します。			
<b>授業の目的</b> 従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆくなかで、「地方で生きること」をテーマとした学習は従来の価値観を相対化し、新たな選択肢を自分事として捉えなおす重要な契機といえる。本授業を通じて、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。			
<b>到達目標</b>			
1. 「地方で生きること」の特徴を的確に捉えて議論に参加することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 自分自身の人生とキャリアに照らしながら、主体的に「地方で生きること」の可能性と課題を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 市民としての責任感や倫理観について理解を深め、「地方で生きること」と関連づけて論じることができる(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。さらに、期末に課すレポートの評価とあわせて、総合的に評価を行う。内訳は次の通り。 各回レポート30% (到達目標2に対応) グループワーク30% (到達目標1に対応) 最終レポート40% (到達目標3に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
●この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【授業及び学習の方法】</b> Moodleに本授業のコースがあります。コース内の指示に従って学習を進めてください。 授業は第1～3回にテーマの論点と関わるいくつかの視点を提示し、事例検討に向けた学習をする。第4～8回に事例検討を中心としたグループワークを行い、討議の成果をグループ間で共有する。ここでは、3～4名程度で1組のグループになり、報告担当者が中心となって討議を進める。各事例を読み解く際の視点や論点、グループワークの進め方等については、教員から手引きが示されるため、討議の進め方がわからない者でも問題なく参加することができるよう用意されている。第8回にはまとめとふりかえりも予定している。なお、毎授業の最後にはミニレポートを書く。各回のテーマに関する資料はその都度提示する。			

### 【授業計画】

#### 第1回 ガイダンス、授業テーマの共有

授業の目的・内容・方法についてシラバスを用いて確認する。

授業テーマ「地方で生きるということ」について簡単なワークを行い、テーマに対する初期イメージの確認をする。

#### 第2回 日本の都市化と東京一極集中

日本の教育機関の変遷を軸に据え、都市化と過疎化が激化していく経緯を概観する。

キーワードとして「立身出世」、「金の卵」、「青年団」、「自己教育運動」などがある。

#### 第3回 コミュニティ政策の転換と地方創生

地域住民同士の連帯とネットワーキングが政策的に重視されはじめた時代の特徴を理解する。

キーワードとして、「地域福祉」、「ボランティア」、「自己実現」などがある。

#### 第4回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 1

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の159～175頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

#### 第5回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 2

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の141～158頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

#### 第6回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 3

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の78～107頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

#### 第7回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 4

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の202～221頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

#### 第8回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 5 及びまとめ、振り返り

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の181～201頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

### 【自学自習のためのアドバイス】

講義では、就学や進学、社会移動という進路選択に関する事項と、コミュニティ、ケア、地方財政といった住民自治に関する事項を取り扱う。こうした広いテーマに高い関心を持ちながら、講義の際に示された参考文献などの情報源から自学自習を進めることが望ましい（15時間）。また、グループワークについては、授業時間外に資料準備等の作業が生じるため、情報収集と意見交換のための論点の設定などの準備を入念に行うことが望ましい（15時間）。

### 教科書・参考書等

教科書は定めていない。参考書としては以下の通り。

●木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年（本体780円＋税）。中央図書館に所蔵有。

●橘木俊詔『日本人と経済 労働・生活の視点から』東洋経済新報社、2015年（本体1,800円＋税）

●西村佳哲『いま、地方で生きるということ』ミシマ社、2011年（本体1,700円＋税）。同著者、タイトルの文庫版（筑摩書房、2019年、本体860円＋税）もある。

※授業の際には該当箇所のコピーを配布する予定のため、購入は必須ではない。関心がある場合は購入するなどして一読することをお勧めする。

オフィスアワー 研究交流棟6階地域連携・生涯学習センター大村研究室

金曜日10:30から13:00までをオフィスアワーとする。

### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワークを予定しているため、大幅な遅刻はグループメンバーへ迷惑をかけることとなります。どうしても時間通りの参加が適わないことが事前にわかっている場合は、必ず教員へ連絡をしてください。

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-edbG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000022)  地域社会におけるSDGs達成への取り組み Local community and SDGs  地域社会におけるSDGs達成への取り組み Local community and SDGs	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q金2	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : edb	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 原 直行, 和田 健司	<b>関連授業科目</b> プロジェクトさぬき		
	<b>履修推奨科目</b> プロジェクトさぬき		
<b>学習時間</b> 講義90分×7.5回+自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> この授業が扱うのは、SDGs (持続可能な開発目標) です。近年、小学校から高校まででSDGsが扱われ、学生の皆さんは各種活動等を通してSDGsに触れてきていると思います。香川大学も、さまざまな形でSDGsに取り組みできました。その一方で、大学生になっても、SDGsが「学習の対象」のまま、皆さんが社会の一員として達成を目指していく、という認識に乏しい場合も多いのではないのでしょうか。本授業を通して、SDGsについての知識を深め、地域社会、つまり、香川県、県内の行政、企業、大学、その他各種団体による取り組みを知っていただきます。SDGsは、地域の課題であると同時に、世界が取り組まなければならない国際的な課題です。世界のそれぞれの地域には、それぞれの課題があります。この授業は、皆さんが行動する契機、学びを深める契機になることを目指しています。			
<b>授業の目的</b> SDGsについての知識を深め、SDGsが地域社会の課題であるとともに国際的課題であることを理解し、今後の自分自身の行動につなげ、専門的な学びを深める契機とします。			
<b>到達目標</b>			
1. SDGsに関する理解を深め、地域や大学による取り組みを説明することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 上記の取り組みを国際的視野で説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 上記に基づき、自分自身は何ができるか、また、貢献するために今後どうしていくかを表現できる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニレポート50% (特に到達目標1に対応)、最終レポート50% (特に到達目標2と3に対応) 皆さんの最終レポートの内容は、一部を最終週に取り上げて共有することを予定しています。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 イントロダクション、成績評価、SDGs概要 第2週 国際交流を通じて香川の里海・瀬戸内海でのSDGs14の実現を目指す (インターナショナルオフィスロン・リム) 第3週 オーバーツーリズム、エコツーリズム、サステイナブル・ツーリズム等のSDGsに密接に関わる観光について (経済学部 原 直行) 第4週 ミニレポートのフィードバック、グループディスカッション 第5週 アプリなど使った障害のある人への支援 (教育学部 坂井 聡) 第6週 SDGs11「住み続けられるまちづくりを」の視点から、機構の取り組みについて紹介 (四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 長谷川 修一) 第7週 SDGs14「海の豊かさを守ろう」、SDGs13「気候変動に具体的な対策を」に関して、海を中心に我々がこれまでどのような環境問題を経験し、現在、どのような問題に面しているのか (農学部 一見 和彦) 第8週 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> この科目の授業は講義形式で行います。毎回ミニレポートを課します。			

講義は基本的に対面で実施します。状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

**【自学自習について】**

自分の興味のある分野や専門とする予定の分野のみではなく、地域として、大学として、日本として世界の中で、という視点を持ち続けながら、主体的な学びを継続してください。  
授業で取り扱った分野の理解度を上げる学習に加え、それを具体化するための方法論を学び、考察してください。

**教科書・参考書等**

必要な資料等は随時配布します。

**オフィスアワー** 高水：火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井：木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

ロン：水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

ただし、事前予約が確実です。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。

**教員の実務経験との関連**

担当する教員は、以下の経験を有しています

- ・ 地域における活動の実践
- ・ 上記を含む授業の計画・実施
- ・ 国際的なSDGsに関する活動の計画・実施
- ・ 各部局におけるSDGs関連の研究・活動

<b>ナンバリングコード</b> BILFD-edcG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000023)  地域をデザインする思考と実践 Consideration and Practice of Design Local area  地域をデザインする思考と実践 Consideration and Practice of Design Local area	<b>科目区分</b> ライフデザイン	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火2	<b>対象年次</b> 1～	
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> ライフデザイン	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : edc	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1		
<b>担当教員名</b> 西成 典久	<b>関連授業科目</b> 地域活性化プロジェクトⅠ、まちづくり論(経済学部開設科目)			
	<b>履修推奨科目</b> 地域活性化プロジェクトⅠ、まちづくり論(経済学部開設科目)			
<b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)				
<b>授業の概要</b>  自分の住んでいる地域をより良くしていきたい、持続可能で豊かな地域の実現に貢献したい、地域と関わりたい、こうした思いを持って入学してきた学生に向けて、本講では、どうすれば地域の課題解決に向けた取り組みを具現化(デザイン)することができるか、その考え方(思考)と実現方法(実践)について様々な事例をもとに講義を進めていく。本講は、特に地域の活性化やまちづくり政策、観光振興や環境デザインといった分野を目指す初学者に向けた講義内容となっている。				
<b>授業の目的</b>  地域の衰退や持続性への懸念が社会問題となって久しい状況にある。人口が増加する規模拡大社会から人口が減少する規模縮小社会へと移行するなかで、日本の地方では、地域経済、自然、環境、医療、食、文化、コミュニティなど、連関する分野で様々な課題が表出している。本講では、こうした日本の地域をめぐる課題や現状を理解したうえで、地域との対話と実践を通じて課題解決を図る立場から、その思考と実践に関する基礎的な知識や考え方を習得することを目的としている。 また、持続可能な地域づくりを意識的かつ主体的に進めていくためには、自分一人で全てを成し遂げることは難しく、その地域と深い関わりを持つ他者との協力関係を築き、「一人の百歩より百人の一步」が生み出される偶然的状況を意識的につくり出していく必要がある。そのためには、地域課題に関する知識だけでなく、実践者としての倫理観やリーダーシップを自ら育成していくことも求められている。				
<b>到達目標</b>				
①日本の地域をめぐる現状と課題を他人に説明することができる。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②アイデア思考の基礎的なスキルを習得することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ③地域での課題解決に向けた実践活動について理解を深め、実践に向けた企画を立案することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)				
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回のリアクションシート(60%)およびレポートなど提出物(40%) ※到達目標①②③に対応				
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>				
<b>【授業計画】</b> ①イントロダクション 地域のミライを構想する イタリア中小都市マテラとの比較 地域の豊かさとは ②地域とどう関わるか 日本の地域をめぐる諸問題 地域と対話し実践する私たちの挑戦 ③地域をデザインする思考法(1) まちづくりのプランニング プランのつくり方・ロジカルシンキング ④地域をデザインする思考法(2) 問題解決思考 問題解決の思考技術・ゼロベース思考・ロジックツリー ⑤地域をデザインする思考法(3) 論理的思考からアイデア思考へ				

問題解決の思考技術・アイデア思考が開く未来

- ⑥地域をデザインする実践法 (1) 状況をデザインする  
つながりの場をつくるコミュニティデザイン 五郷里づくりの会
- ⑦地域をデザインする実践法 (2) プロジェクトの起こし方  
will・can・must企画3円について
- ⑧まとめ  
アイデア思考から実践へ

#### 【授業及び学習の方法】

授業は講義形式とグループワーク形式によって進めていきます。  
毎回、授業後に講義の感想や気付きについてリアクションペーパーを提出してもらいます。

この科目は基本的に対面授業で実施しますが、一部の授業回では遠隔授業とする可能性があります。  
なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

#### 【自学自習についてのアドバイス】

全体を通じて、地域振興やまちづくりに関する参考書や記事を事前に読み、実際にいくつかの現場を訪れることを薦めます。

第2回 地域に対する自分自身の問題意識を明確化するためにも、自分の考えを文章化してみましょう。

第3～4回 自分自身が関心をもつ地域の課題を発見し、課題解決に向けた方策を考えてみましょう。

第5～7回 地域の課題解決や魅力創造のプランをどう実現するか、様々な事例を調べてみましょう。

#### 教科書・参考書等

特定の教科書は使用せず、参考書は適宜紹介します。

オフィスアワー 日時については講義中に伝えます。

研究室の場所は幸町南3号館3階の西成研究室です。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

地域の課題解決や魅力創造に貢献したいと思って入学した新入生はぜひ履修してください。

本講はグループワーク等、他者と話し合う機会が講義中に多くあるため、それを理解したうえで履修してください。遠隔式の場合でも、グループワークは基本的にカメラオンで参加してもらいます。

本授業の内容は、2021年度開講の主題C講義型科目「地域をデザインする思考と実践」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

#### 教員の実務経験との関連

国や自治体の調査・計画立案や環境整備事業に関する実務経験があります。

企業や大学での実務経験をもとに、講義内容を組み立てていきます。